

令和2年度飯島町ボランティアセンター事業計画(案)

1. ボランティアセンターの充実

- (1) ボランティアセンター運営委員会の開催
- (2) 登録団体及び個人ボランティア等との情報交換

2. ボランティア人材の確保・育成

- (1) やらまいか講座
- (2) 地域福祉推進員の活用
- (3) 若い方のボランティア登録の推進

3. ボランティア活動の啓発と広報

- (1) ボランティア情報誌「さくらそう」の発行（第195号～第198号）
社協報「ふくし」に綴じ込み年4回発行予定 全戸配
- (2) ホームページの作成、掲載

4. ボランティアの相談・斡旋・調整

- (1) ボランティアをしたい、してもらいたい調整
- (2) ボランティア団体の育成支援・調整

5. 各種事業への参画と協力

(1) 各種事業

- ① 第26回ふれあい広場 (令和2年9月6日(日)文化館)
 - ② 第27回ボランティアクリスマス交流会 (令和2年12月12日(土)成人大学センター)
 - ③ 第8回飯島町社会福祉大会 (平成3年1月31日(日)石楠花苑)
- #### (2) 安心コール事業

一人暮らし高齢者または高齢者世帯の方に対して、協力ボランティアさんが安否確認(週1～2回 月～金曜日、祝日は除く午前10時30分～昼頃まで)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は社協職員が毎週水曜日に行っています。

(3) ご縁食堂

地域の居場所作りとして誰でも集まることのできる食堂を始める。地域の高齢者、障がい者、子どもから大人まで誰でも参加できる形で4地区をベースに開催。

(4) ふれあいいきいきサロン

自治会を単位として「共働」「会費制」「身近な集会所で」を基本にボランティアさんが開催し、高齢者や障がい者など、出かける場所が限られている方達の楽しみ場・集いの場を作っていく。

6. 福祉教育の推進

- (1) 地域の小、中学生を対象に福祉教育の場を作っていく。前年度までのスリーハート塾のようにその都度募集をするのではなく、長く続けていけるように学校に働きかけ、クラス、学年単位で行える福祉教育をしていきたい。
- (2) 内容としては、デイサービス訪問、認知症サポーター養成講座、障がい者フライングディスク、車椅子教室等々
個人ボランティア、ボランティア団体の皆様に、活動の紹介や、一緒に活動する

などしてご協力をお願いすることもあるかと思えます。ご協力お願い致します。

(3)小、中学校の先生方と話し合い、学校はどんな福祉教育を求めているのかを話し合える場を設けたい。

※やりたい『福祉教育』がありましたら、教えていただきたいと思えます。

(4)福祉教育指定校 飯島小学校

7.その他のボランティア事業

収集ボランティア活動（書き損じはがき、古切手）

8.研修会等について

(1)信州発ボランティア・地域活動フォーラム

~~(2)上伊那ブロックボランティア交流研究集会（南箕輪村）（令和2年12月5日）~~

※なお、新型コロナウイルスの影響により停止しておりましたボランティア事業も徐々に再開されております。しかし、状況によっては予定通りの開催が出来ないかと思われませんが、ご了承いただき、開催の際には是非ともご協力いただきますよう、よろしくお願い致します。